

「医療・福祉のツボ」 貧困と生活保護（30）

医療扶助の最大の課題は、精神科の長期入院

読売新聞編集委員で精神保健福祉士の原昌平さん

生活保護費のほぼ半分を占めている医療扶助。どういう医療に使われているのか、どんな病気が多いのか、保険医療と比べて傾向の違いはあるのか。データをもとに見ていきましょう。

今回言いたいのは、医療扶助は入院が多いこと、その中でも精神科の入院が多いこと、しかも長期入院が多いことです。いちばんに力を入れるべき改革の課題は、そこにあります。

入院医療費のウェイトが大きい

まず、2013年度の医療扶助費の大まかな内訳を示します

（金額は「生活保護費負担金事業実績報告」から）。

医療扶助費の内訳(2013年度)

種類	億円	構成比(%)
医科(入院)	9,506	55.7
医科(入院外)	4,026	23.6
調剤	2,646	15.5
歯科	672	3.9
訪問看護	80	0.5
その他	146	0.9
計	17,077	100

＊「その他」は通院移送費、施術、治療材料など

まずわかるのは、医科の入院医療費が9506億円、全体の55.7%と大きいことです。ここには、医療機関が受け取る入院時食事療養費（食事代）、入院時生活療養費（65歳以上で療養病棟に入院したときの食費・居住環境費）も含ん

でいます。

医科の入院外医療費（通院、在宅医療）は23.6%です。院外処方薬局が受け取る調剤費（薬代、調剤技術料、薬学管理料など）も15.5%あります。医科入院外、調剤、歯科、訪問看護を合わせたものが、外来を中心にした入院外医療のほぼ総額にあたり、7424億円（全体の約43.5%）です。

人数で7%の入院患者に、費用の55%

医療扶助を受けた人数はどうでしょうか。2013年度の「被保護者調査」のデータを示します。

医療扶助の人数(2013年度)

種類	1か月平均の人数	構成比(%)	うち精神障害の人数	精神障害の割合(%)
入院	123,648	7.1	53,105	42.9
入院外	1,621,967	92.9	60,234	3.7
計	1,745,615	100	113,339	6.5

医療扶助による入院患者は、1か月平均で12万人余り。そのうち5万人余りが精神障害で、実に42.9%を占めています。これに対し、入院外の患者は162万人余りとはるかに人数が多いのですが、精神障害の割合は高くありません。精神障害の継続的な通院の大半が、障害者総合支援法の自立支援医療でまかなわれることが大きな理由です。

人数で見ると7.1%の入院患者に、医療扶助費全体の55%余りが使われているわけです。

最初の表にあった医科の入院費を12で割ったうえで、この表の入院患者数で割ると、平均で1人あたり月64万0663円になります（食事療養費・生活療養費を含む）。入院外の医療費総額（医科入院外・調剤・歯科・訪問看護）を12で割り、さらに入院外の数で割ると、1人あたり月3万8143円です。入院と通院では、費用のケタが違ってくるのがわかります。

入院診療費のほぼ3割が精神科

医療扶助では、どんな病気が多いのか。2015年の「医療扶助実態調査」から、詳しいデータを拾い出してみましよう。この調査は、同年6月に審査された診療報酬明細書（レセプト）の診療費部分を集計したものです。レセプトは通常、前月分の診療をまとめて請求するので、このデータは、おおむね5月分の状況を示しています。

次の表は、入院診療のデータです。「件数」はレセプトの数で、1か月の間に診療を受けた人数と考えてかまいません。「推計年間額」は1か月の請求を12倍して筆者が算出しました。

「1件あたりの金額」は、レセプト1件あたりの平均診療費です。「1件あたり日数」は、1か月のうち平均何日入院していたかを示します。「1日あたり金額」は、入院していた日あたりの費用で、病気によって差があります。

入院(医科)の診療状況(2015年6月審査、医療扶助実態調査から)

傷病の種類	件数	件数の構成比(%)	年間推計額(億円)	金額の構成比(%)	1件あたり金額(円)	1件あたり日数	1日あたり金額(円)
総数	139,717	100	7,835	100	467,297	21.2	22,027
感染症・寄生虫症	2,019	1.4	112	1.4	463,281	14.8	31,261
新生物(がんなど)	11,618	8.3	848	10.8	608,472	14.6	41,602
血液・造血器の疾患	640	0.5	42	0.5	540,531	14.4	37,496
内分泌・栄養・代謝疾患	6,242	4.5	302	3.9	403,142	16.9	23,849
精神・行動の障害	49,648	35.5	2,222	28.4	373,038	28.4	13,154
神経系の疾患	6,867	4.9	366	4.7	443,696	24	18,481
目及び付属器の疾患	1,519	1.1	69	0.9	379,205	5.5	68,378
耳及び乳様突起の疾患	302	0.2	10	0.1	284,576	7.3	39,136
循環器系の疾患	21,229	15.2	1,543	19.7	605,869	19.3	31,433
呼吸器系の疾患	7,886	5.6	444	5.7	469,312	15.7	29,843
消化器系の疾患	7,365	5.3	378	4.8	427,794	12.5	34,164
皮膚・皮下組織の疾患	1,111	0.8	63	0.8	470,666	17.3	27,243
筋骨格系・結合組織の疾患	5,157	3.7	354	4.5	571,783	17.8	32,078
尿路・性器系の疾患	3,722	2.7	210	2.7	470,067	14.1	33,251
妊娠・分娩・産じょく	233	0.2	9	0.1	313,886	7.3	42,945
周産期に発生した病態	96	0.1	5	0.1	415,141	9.2	45,134
先天奇形・変形・染色体異常	127	0.1	8	0.1	512,679	14.6	35,157
損傷・中毒他の外因影響	8,456	6.1	564	7.2	556,171	17.9	31,114
他に分類されないもの	1,646	1.2	81	1	407,767	17.5	23,326
不詳	3,834	2.7	205	2.6	444,936	24.1	18,458

最も多いのは「精神・行動の障害」で、件数で35.5%、金額でも28.4%を占めます。

1件あたりの金額は37万円台と少し安めですが、1件あたりの入院日数が28.4日と長く、ずっと入院している患者が大半であることがわかります。患者の3分の2は統合失調症です。

次に多いのは循環器系の疾患で、件数で15.2%、金額では19.7%。その多くは脳梗塞などの脳血管障害と、心臓疾患です。

全体の平均で1件あたりの金額が46万円台と、先ほどの試算（月64万円台）より少ないのは、レセプト1枚あたりの金額である（その月ずっと入院している患者ばかりではない）ことと、食事療養費・生活療養費が入っていないためです。

外来通院は高血圧・整形外科・糖尿病が多い

入院外(医科)の診療状況(2015年6月審査、医療扶助実態調査から)

傷病の種類	件数	件数の構成比(%)	年間推計額(億円)	金額の構成比(%)	1件あたり金額(円)	1件あたり日数	1日あたり金額(円)
総数	1,788,437	100	3,717	100	17,322	2	8,496
感染症・寄生虫症	50,063	2.8	111	3	18,452	2.1	8,991
新生物(がんなど)	61,378	3.4	343	9.2	46,625	1.8	25,953
血液・造血器の疾患	6,567	0.4	27	0.7	34,432	1.7	20,164
内分泌・栄養・代謝疾患	201,949	11.3	498	13.4	20,562	1.9	11,012
精神・行動の障害	88,949	5	157	4.2	14,746	1.8	8,090
神経系の疾患	65,952	3.7	153	4.1	19,287	2	9,466
目及び付属器の疾患	132,466	7.4	172	4.6	10,847	1.3	8,286
耳及び乳様突起の疾患	23,485	1.3	29	0.8	10,133	2	5,037
循環器系の疾患	400,043	22.4	832	22.4	17,341	1.9	9,007
呼吸器系の疾患	147,082	8.2	251	6.7	14,196	1.8	7,971
消化器系の疾患	110,430	6.2	222	6	16,779	2.1	7,962
皮膚・皮下組織の疾患	79,577	4.4	77	2.1	8,086	1.5	5,236
筋骨格系・結合組織の疾患	231,624	13	454	12.2	16,348	3.3	4,945
尿路・性器系の疾患	49,663	2.8	124	3.3	20,868	1.7	12,414
妊娠・分娩・産じょく	992	0.1	1	0	11,336	1.7	6,754
周産期に発生した病態	541	0	1	0	15,297	1.5	10,229
先天奇形・変形・染色体異常	3,222	0.2	7	0.2	16,872	1.6	10,533
損傷・中毒他の外因影響	45,634	2.6	87	2.3	15,881	2.3	6,904
他に分類されないもの	28,720	1.6	56	1.5	16,212	1.7	9,589
不詳	60,100	3.4	114	3.1	15,768	2.2	7,303

今度は、入院外（通院・在宅医療）のデータを見てみましょう。

一番多いのは循環器系の疾患で、件数でも金額でも22.4%。大部分は高血圧です。2番目は筋骨格系・結合組織の疾患で、件数で13.0%、金額で12.2%。これは整形外科の扱う脊椎や関節の病気が中心です。3番目は内分泌・栄養・代謝疾患で、件数で11.3%、金額で13.4%。メインは糖尿病です。

全体の平均では、ひとつの医療機関に月に2日ぐらい通院して、1回の受診に8496円かかったという計算になっています。

突出して高い生活保護の精神科入院率

生活保護の人が医療を受けている率は、公的医療保険と比べてどうなのか。病気のグループごとの受療率を入院・入院外に分けて算出してみました。次の表に示したのは、1000人あたり・月あたりの受診人数（レセプト件数）です。分母は、それぞれの保険制度の対象者数（家族を含む）と、生活保護利用者全体の人数（医療扶助を受けていない人を含む）です。医療保険については公表分の中で最も新しい13年度の医療給付実態調査、生活保護のほうは、それと時期が近くて詳しい集計のある14年6月の医療扶助実態調査のデータを用いました。

制度別に見た受療率の違い(対象者1000人あたり・月あたり)

(各種医療保険は2013年度分、生活保護は2014年6月審査分のレセプト件数から算出)

疾病分類	入院				入院外			
	協会けんぽ	国保	後期高齢者	生活保護	協会けんぽ	国保	後期高齢者	生活保護
全体	7.6	17.7	67.3	65.3	485.8	639.6	1247.9	827.8
感染症・寄生虫症	0.2	0.3	1.2	1	23.1	20	21.7	23.5
新生物(がんなど)	1.3	3.1	7.4	5.4	15.2	25.6	49.7	28.5
血液・造血器の疾患	0.1	0.1	0.5	0.3	2.9	2.5	3.9	3
内分泌・栄養・代謝疾患	0.2	0.6	3.1	2.9	38.2	76	127.1	92.6
精神・行動の障害	0.4	3.6	5	23.7	19.9	33.5	30.2	41.1
神経系の疾患	0.3	1.1	4.8	3.2	11.4	18.7	46.6	30
目及び付属器の疾患	0.2	0.5	1.8	0.7	42.1	56.2	129.3	60.9
耳及び乳様突起の疾患	0.1	0.1	0.2	0.1	9.6	9.8	15.5	10.9
循環器系の疾患	0.8	2.4	16.7	10.1	58.8	135.2	403.4	184
呼吸器系の疾患	0.6	0.8	6	3.3	107.4	70.8	48.2	70.6
消化器系の疾患	0.8	1.5	4.7	3.4	26.6	38.9	73.4	52.1
皮膚・皮下組織の疾患	0.1	0.1	0.6	0.5	45.2	35.1	35.6	35.6
筋骨格系・結合組織の疾患	0.4	0.9	4	2.3	37.3	65.5	170	106
尿路・性器系の疾患	0.4	0.7	3	1.6	16.7	21.7	44.6	22.4
妊娠・分娩・産じょく	0.7	0.3	0	0.1	2.3	0.9	0	0.4
周産期に発生した病態	0.3	0.1	0	0	0.7	0.3	0	0.3
先天奇形・変形・染色体異常	0.3	0.3	1.3	0.1	11	12.5	20.4	1.5
損傷・中毒他の外因影響	0.6	1.1	7	3.8	17.1	16.4	27.7	20.8
他に分類されないもの	0.1	0.2	1.3	0.8	9.2	11.2	19.3	13.1

中小事業所の勤め人とその家族を対象にした協会けんぽに比べ、ほとんどの疾病分類で、国民健康保険のほうが受療率が高く、とくに入院の率が高いことがわかります。後期高齢者医療制度では、さらに著しく高い受療率になっています。

生活保護はだいたい、国保と後期高齢者の中間の数字です。生活保護は平均年齢が55.3歳(14年7月、被保護者調査)と高く、本来なら後期高齢者医療の対象になる75歳以上の人・65歳以上の障害者も多く含まれるので、当然でしょう。医療扶助の内訳で患者数が多かった入院の脳血管障害、心臓疾患、入院外医療の高血圧、糖尿病、整形外科疾患の受療率を細

かく調べても、やはり国保と後期高齢者の中間の数字です。これらは基本的には、自然な状況と解釈できそうです。

しかし、特異な数字があります。精神・行動の障害による入院です。国保で3.6、後期高齢者で5.0なのに、生活保護は23.7と飛び抜けて高いのです。

精神科の長期入院という問題

どうして生活保護では精神障害による入院が多いのか。貧困はメンタルに影響するものの、保護の利用者が飛び抜けて精神障害になりやすいわけではないでしょう。精神障害になった結果、収入をあまり得られず、保護を受けているということでしょう。そこには、精神科の入院の長さも関係しています。

6か月以上、あるいは1年以上の入院をする患者がいる世帯では、生活保護制度上の「世帯分離」がたいてい行われます。入院患者だけが保護を受け、他の家族は保護を受けずに経済的に自立して生活します。入院がとても長い傾向にある精神科では、その適用が多いのです。

実際、15年6月の医療扶助実態調査では、精神障害による入院患者数（レセプト件数）のうち、1年以上の入院が67.6%にのぼります。5年以上に絞っても43.6%です。逆に計算すると、医療扶助の入院患者全体のうち精神障害は35.5%ですが、入院1年以上では74.2%、5年以上だと85.3%が、精神障害による入院です。

入院が長くなったから、生活保護を受けているという面もあるわけです。福祉事務所のほうも、いったん入院したら病院に任せたまま、退院の支援をあまりやって来なかったのです。

人権の面でも、コストの面でも

日本は、世界でも突出して精神科のベッド数、入院患者数が多い国です。入院は最近でも約30万人にのぼり、精神病床の平均在院日数は281.2日（14年の「病院報告」）に及んでいます。

患者の中には、長く入院した結果として意欲や生活力が低下している「施設症」や、退院して暮らす所を確保できていないために入院を続けている「社会的入院」が少なくありません。

精神科に入院中は、保護室への隔離、身体拘束をはじめ、自由や権利を制約されることがあります。必ずしも入院が不可欠ではないのに、人生の貴重な時間を病院の中で失っていくこと自体も、幸福追求権という人権の侵害です。

コストの問題もあります。医療扶助実態調査のデータで見ると、精神科の場合、入院にかかっている診療費は、平均で1か月あたり40万円程度と安めですが、ほかに食事療養費が必要です。医療機関に支払われる食事代は1食640円が基本で、3食とって、まる1か月入院すると、5万8000円ぐらいかかります。ほかに、生活扶助から出る入院患者日用品費（自分で使えるお金）が月2万2680円。合わせて月48万円ぐらいはかかります。

仮に退院して、単身でアパートやマンションに住んで生活保護を受けると、生活扶助と住宅扶助を合わせて9～13万円程度。通院やデイケアの医療扶助を加えても、多くて月に二十数万円かかるかどうかでしょう。グループホームなどの福祉系施設で暮らす場合も似たようなものでしょう。

障害者福祉や介護保険のサービスが必要にはなりますが、そうした生活保護以外の社会的費用を考慮しても、病院より地域生活のほうが、安上がりなはずです。

内科系や整形外科系など、精神科以外の入院患者の一部にも、同様の課題があります。

https://yomidr.yomiuri.co.jp/article/20160428-OYTET50014/4/?catname=column_hara-shohei

関連するキーワード・タグ



原昌平（はら・しょうへい）

読売新聞大阪本社編集委員。

1982年、京都大学理学部卒、読売新聞大阪本社に入社。京都支局、社会部、科学部デスクを経て2010年から編集委員。1996年以降、医療と社会保障を中心に取材。精神保健福祉士。2014年度から大阪府立大学大学院に在籍（社会福祉学専攻）。大阪に生まれ、ずっと関西に住んでいる。好きなものは山歩き、温泉、料理、SFなど。編集した本に「大事典 これてわかる！医療のしくみ」（中公新書ラクレ）など。